2023年5月1日号　毎月１と15の日　月２回発行　日中友好新聞（昭和25年９月13日第３種郵便認可）　第2587号付録

# 日中友好新聞

日中友好協会
愛知県連合会
県連版第321号
〒464－0821
名古屋市千種区
末盛通4-18
電話052-763-1152
Fax 052-763-1153
http://www.nittyu-aichi.jp
E-mail:jc77918@amber.plala.or.jp
郵便口座
00890-6-25484

## 王希奇「一九四六」展・平和の尊さ再確認

３月22日、日中友好協会愛知県連は満蒙開拓平和記念館で「王希奇『一九四六』を観て昼神温泉に遊ぶ」ツアーを開催し、50人が参加しました。

金山駅からバスで長野県まで。久しぶりの行事は好評で、あっという間に募集定員に達し、キャンセル待ちが出るほどでした。また補助席を使うほどの状況でした。

作者の王希奇さんは「高さ３m、長さ20mにも達する長巻の世界に入り込んで、そこに居合わせたように実感してほしい」また「通常の絵画の手法によらず、登場人物が蛍のような光を放って存在するように描いた」と述べています。

そのように絵画は暗い色調の中に５００人ほどの日本人引揚者が様々な姿で葫芦島から日本に還る埠頭の有様を見事に再現していました。

襤褸（ぼろ）をまとってはいますが、人々の眼差しには命を繋ぎ留められた希望が見られました。そして観るものに、戦争の悲惨と平和の尊さを訴えかけてきました。

私たちはに幸運にも会場で作者の王希奇さんご夫妻にお会いできました。前日のオープニングセレモニーに、寺沢秀文館長や歌手の加藤登紀子さんらとともに出席。滞在中に生存する引揚者と旺盛に対話されているのでした。そして記念写真にも応じていただきました。

参加者と平和記念館前で撮影、県連の旗の右：王希奇さん

作者・王希奇さん、会場にて

中国語教室の受講生を募集中です。一緒に楽しく中国語を学習しましょう。

## 阿智村の満蒙開拓平和記念館
## 王希奇『1946』展ツアーに参加して

３月22日、雪をかぶった南アルプスの山なみが、青空のもと太陽に反射してまぶしい。

満蒙開拓平和記念館へ、日中友好協会愛知県連合会の「１９４６」展ツアーに出かけた。

高さ３メートル、横20メートルの巨大な絵の中に描かれている数百人の群像に圧倒される。命からがら満州各地からようやくの思いで（葫蘆島に）辿り着いた人々の姿が言い知れぬ感動を多くの人たちに与えている。

この絵は仙台をはじめとして高知、神戸、東京そして長野県阿智村の満蒙平和記念館に展示された。あらためて葫蘆島からの百万人以上の引き揚げの事実やその歴史的背景を掘り起こした。

作者は中国人の画家王希奇（ワンシーチー）さん。制作に５年半の歳月をかけたという。なんとその人にこの場で会えたことはまったくの奇遇だった。

また、満蒙開拓平和記念館の存在意義をあらためて評価したい。

柳田　常樹

（緑支部ニュースから転載）

## 3月22号《一九四六》的画欣赏会

３月22号，日中友好协会爱知县联合会举办了一个活动，这个活动的主要目的是去满蒙开拓和平纪念馆欣赏《一九四六》这副绘画作品。满蒙开拓和平纪念馆的位置是在长野县，我们从名古屋的金山坐大巴车去了。

参加的人员一共有50个，可是大巴车的座位只有49个，已经满座不能在坐人了，剩下的1个人不得不坐附加座去了。这附加座坐的人是我，但没那么不满。

我们欣赏的那幅画特别好，是3米高20米宽的巨大作品，颜色基调是暗色的，其中有光。绘画里一共有500个人从葫芦岛返回祖国的日本人，都穿着破衣服，但他们的眼睛里有着希望之光。这幅画给我留下了难忘的印象。（永井淑子）

▼県連・木曜日の中国語講座に参加の永井さんから「中国語で中国語」の教室で、絵画＜一九四六＞鑑賞会に参加したことを作文にしました。それを張雨先生に添削していただきました。」との記事をいただきました。

▼上記の本文記事はほぼこれに準じた内容になっています。

# 母の歩いた道 ⑨

北村彰夫（揖斐郡池田町）

## 満州での学校生活

開拓団の子どもたちのために、はじめは本部に学校があったんだよ。遠くの子どもらは清河鎮の近くの分校に通っとったんだけどね、そのうちに本部の近くに学校ができて。後で知ったんだけども、あのころ、満州にいっせいに学校ができたみたいだね。写真で見るとみんな同じ造りになっとるね。本部から遠い部落の子どもらは寄宿舎に入っとったよ。月曜日に寄宿舎に来て、金曜日に家に帰って。

在満国民学校だね。

日本人用の学校だったけど何人か朝鮮人の子どもの来とったね。朝鮮人でも裕福な家の子だろうね。お母さんも通ったの？

はじめは私も寄宿舎に入っとったんだけど、満州に渡ってすぐに大病したりして、あんまり学校には通っとらんのよ。それに、（昭和19年12月に）お父さんが大けがして、お母さんが看病につきっきりだったり、その後、目を患ったりしたろ。だから家の仕事がみんな私の肩にかかってきて、学校どころじゃなかったね。それでもまるさん（母の母）は「学校行け」って・・・嫌だったよぉ、ロクに通っとらんのだからなんにもわからんし。それに、家畜の世話やらなんやらで遅れていくもんだから立たされてばっかりで。「行きたくない」って言ったら「立っとるだけでもいいから行ってこい」って。

いつだったか、私が畑で一人で仕事しとったら先生が通りかかって「なんで学校こんのや、こないなら親が刑務所にいられるぞ」って言われたことがあって。わたしゃ、怖くて怖くて、お父さんとお母さんが刑務所に入れられたらどうしよって、内心、一人で震えとったんだ。

その時に「平等」ってことを意識したね。「平等」なんて言葉知ってたの？

そりゃ、知っとったよ。みんな学校に行くのに、私だけ行かれんのは辛かったからね。それがさ、敗戦が近づいてくるとみんな学校に行かんようになってね。学校どころじゃなくなって。それはそれで、うれしかったんだよ。私もみんなと一緒になったって。それに、「ああ、これでお父さんやお母さんが刑務所に行かんですんだ」って安心もした（笑）。

（写真は作者と母の北村栄美（えいみ）さん：満蒙開拓平和記念館などで語り部として活躍中）

## 支部だより

▼稲沢支部

３月19（日）に第９回支部総会を開催。来賓挨拶に続き、議事、文化行事（「証言Ⅱ中国人強制連行」ＤＶＤ上映）ととても原則的かつ有意義な総会でした。

毎月の会員向け企画も欠かさず追求しています。

▼豊田支部

３月19（日）に豊田支部も総会を開催しました。情勢報告の後昨年度10回の「知ろう、中国」カフェは、中国の歴史をたどるもので毎回平均10人の参加者です。

▼緑支部

３月５日に「餃子パーティを行いました。（詳細は次号で。）

## 県連だより

▼「日中全国大会」が６月４日（日）に東京会場とズームとの両方で行われます。会員の増加で迎えたいと思います。ご協力お願いします。

▼県連総会

７月に予定し、準備を進めます。

▼県・戦争展

今年は、８月10～13日。パネル展示は「村瀬守保写真展」、ピースステージは、８月11日（山の日）に大西広氏の講演会をします。

▼３月25日に７団体による「強制連行の真実にせまる」副題：三菱マテリアル中国人強制連行事件和解から学ぶ、講師：平野伸人氏、を生協文化会館で開催。盛会であった。

▼陳元贇研究会

４月15日に安城市の丈山文庫で「石川丈山と陳元贇を偲ぶ」会を開催。地元の研究会との交流などは、新聞にも取り上げられました。←次号で掲載します。

## お知らせ

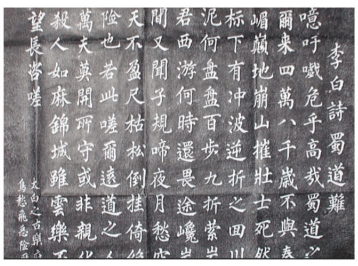
▼次回の「中国百科検定」は第13回で、７月15日に、岐阜会場（JR岐阜駅）で受験できます。中国に関心があったり、中国語を学ぶ人も仕事で関わる人、また日本で暮らす中国の方にも受けていただきたい。最近は若い人の受験が増えているのが特徴です。

▼「大府支援する会」総会が、５月20日（土）13時30分～労働会館（金山）の203・204会議室で開催されます。ご参加ください。

## 中国ものしりコーナー

### 34. 劉備軍が進軍した蜀の道

李白の詩に「蜀道の難は、青天に上るよりも難し」と謳われる蜀の桟道。中でも最大の難所と言われる「明月峡古桟道」と、歴代の攻防戦が繰り広げられてきた天然の要塞「剣門関」がここにあります。



李白詩蜀道難

噫吁嚱危乎高哉蜀道之難難上青天
爾来四萬八千歲不與秦
嶋嶺地崩山摧壯士死然
標下有冲波逆折之回川
泥何盤盤百步九折縈岩
若西游何時還畏途巉岩
聞又聞子規啼夜月愁心
天不盈尺枯松倒挂倚絶
險也若此嗟爾遠道之人
萬夫莫開所守或非親人
殺人如麻錦城雖雲樂不
望長安嗟

明月峡古桟道

「蜀道の難は、青天に上るよりも難し」と謳われた「剣門関」と、険峻な地に築かれた不落の関所であり、諸葛孔明の北伐ルートでありました。

「剣門関を得れば、四川を得る」といわれた魏軍との戦いにより蜀が滅亡するまで、蜀の名将姜維が死守したとして知られています。

「明月峡古桟道」は牛古道と呼ばれ、陵江に沿って古代から嘉陵江に沿って古代から蜀の国に通じる重要な道でした。

「剣門関」は、金牛道と呼ばれ、時に峡谷に沿って進む桟道に時に峡谷に沿って進む桟道に時に峡谷に沿って進む桟道に